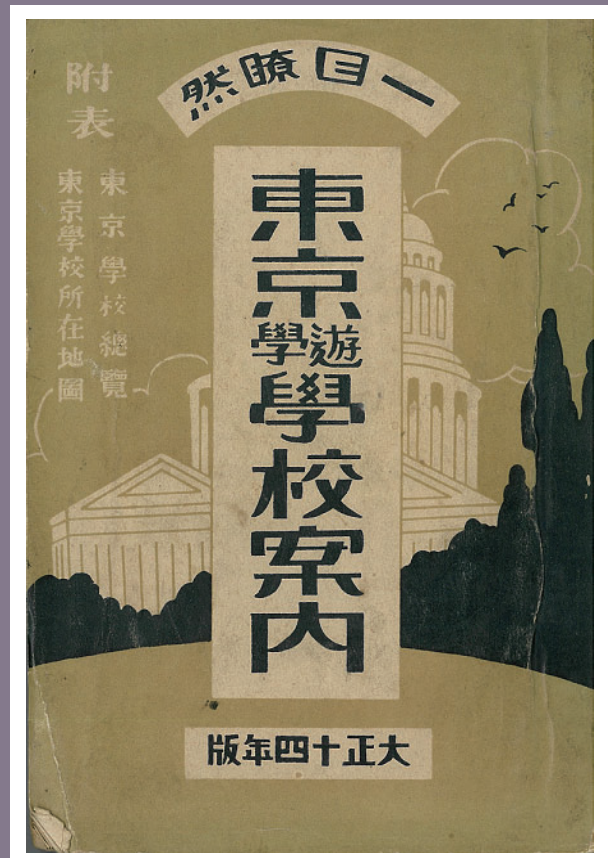


東京遊学 学校案内

大正 14（1925）年頃の東京の学校紹介を目的に刊行されました。

大正時代の東京学校事情

大正 14（1925）年、東京には、「3 百（小學校を除いて）以上」の学校がありました。東京市（現在の東京 23 区）内の各地に今でも名を馳せる歴史ある学校が数多く、「東京と云ふ都會は學校へ入学する者の為に實に都合が^{よく}出来て居る。云はゞ『學校のデパートメントストア』」でした。



大正14(1925)年2月9日発行

関東大震災と東京の学校

大正12(1923)年9月、関東大震災では、「東京に於る^あ學校の五六割近くが一時は失われ」ました。しかし、「先づ、神田では圖書館^{としょ かん}が焼け残つたのを幸ひ之を中心として中央大學が盛り返し、研數學館^{けんすう がっかん}では十月の末に早くも焼やけあとにバラツクを建て^{たて}、道行く人の耳に勇ましい講義を聴^きかせ」たとして、東京で学ぼうとする学生は減ることなく、学校は増え続けたことが記されています。

上京に当たって

大正時代、大学の学費は高額で、東京帝国大学の場合、「授業料年額^{えん}大學七拾五圓、入学金五圓^{えん}」とあり、下宿代も「六疊^{じょう}の間で食料共三十五圓^{えん}はとるのが普通」でした。大正14(1925)年頃の国家公務員初任給が75円であったことから、上京して学校に通うための費用は高額であったことがうかがえます。

[illegible]

(公財) 特別区協議会

One23Vol.36(2019 春号) 掲載

